

小さな短所は見逃せ、欠陥は叩き潰せ

「少しの欠点も見せない人間は、バカか偽善者だ。そのような人間を決して信じるな」
フランスの哲学者ジョセフ・ジュベールの言葉である。だが、私にいわせれば、これは半分真実ではあるが、半分は違うのではないかと思う。

「短所に対しては、あまり神経質になるな」

というのが、この本の主旨だが、一つだけはっきりとさせておきたいことがある。それは、自分で自覚しているマイナスポイントをすべて無視してもいいわけではない、ということだ。

人間のマイナスポイントというのは、実は二通りある。

「自分を苦しめるもの」と「他人を巻き込んでしまうもの」だ。

一見、どちらも同じように、自身にとっては短所と思われるものであるが、この二つには明確な違いがある。

たとえば、ある短所について、それを本人が悩んでいるのなら、これは軽視しても構わない。短所というのは、誰もが持っている。外人様よそさまに迷惑を掛けるようなことさえしなければ、多少なりとも短所や欠点があったとしても、まわりは受け入れてくれる。気にすることはないので。もっと前向きに物事を考え、自分の長所を伸ばしてポジティブに生きていく方がいい。

問題なのは他人を巻き込んでしまうものである。

たとえば「秘密を守れない」という短所のせいで、他人に迷惑を掛けてしまうというのは、これはもう短所ではない。「欠陥」である。この欠陥は、おしゃべりをしすぎないなどで、少しずつ直していくしかないだろう。